

講義コード [8-1]		開講区分	1 学年 前 ・ (後)
森林公共政策入門		タイプ・総コマ数	学科 15 コマ
		講師	窪田好男、池田葉月、内部講師
目的	林大生が公共政策を学ぶに当たり、両専攻が共通して知っておくべき基本事項を学ぶ。		
概要	森林・林業の持つ公共性と、幅広く地域の振興に関わる森林業の視点を学び、相互理解のためのコミュニケーションスキルを学ぶ。		
講義	テーマ	講義内容	
1	森林・林業の公共性と林業の視点	森林・林業の公共性と私たちが学ぶこと 森林業の視点と森林業展開のヒント	
2	公共政策とは	公共政策の目的と必要性	
3	公共政策の評価	公共政策の方法と種類	
4	公共政策の評価	公共政策の効果と評価	
5	公共政策の評価	政策のよしあし、費用対効果など	
6	ケースメソッド地域振興施策	京丹波町の地域振興計画を読み、森林・林業施策を探る	
7	ケースメソッド地域振興施策	地域振興施策の企画立案(グループワーク)	
8	ケースメソッド地域振興施策	地域振興施策の企画立案(グループワーク)	
9	ケースメソッド地域振興施策	プレゼンテーション	
10	グループワークとプレゼンテーション	企画した課題についてグループワークを行い、プレゼンテーション資料を作成する	
11	政策実現の技法	具体事例を用いたファシリテーション技法を身につける (グループワーク)	
12	政策実現の技法	具体事例を用いたファシリテーション技法を身につける (グループワーク)	
13	政策実現の技法	政策形成に向けた発表資料の作成	
14	政策実現の技法	プレゼンテーション	
15	ふりかえり		
評価方法	評価タイプ:B		
テキスト	必要な資料を配布します		
参考書			
備考	企画立案:森林公共政策実習		

講義コード [8-2] 京都府立大学社会科学部		開講区分	2 学年	前	後
<h1>公共政策学入門Ⅱ</h1> <p>(アクティブ・ラーニングで学ぶ公共政策)</p>		コマ数	講義(座学) 15コマ	実習	0 コマ
		講師	窪田好男		
目的	この科目はアクティブ・ラーニングによってポリシーマインドの定着を図ることを目標とする。公共政策学の特徴ある教育方法を体験を通じて知り、身につけることができる。また、事例として地方創生に関わる公共政策を取り上げるため、これからの時代のライフデザインやキャリアデザインに必要な地方創生についての専門知識を身につけることができる。アクティブ・ラーニングとは学生が能動的・主体的に学びに参加する教育法である。ポリシーマインドとは研究や実務で公共政策に関わる全ての人が共有すべきマインドである。地方創生とは、これからの数十年で不可避に進行する人口の急減、都市への偏在に対応するために日本で国と地方自治体が展開している公共政策である。				
概要	この科目を履修することにより、公共政策学の特徴ある教育手法である政策コンペ、PBL、ケースメソッド、政策ディベート、ゲーミング・シミュレーション等について基礎知識を得るとともに、体験の機会を得ることができる。				
講義	テーマ	講義内容			
1	ガイダンス	授業の全体像の説明やteamsの使い方等			
2	ポリシーマインドとよい政策の4要素	【教科書第1章】【教員作成教材】			
3	地方創生(1)	増田レポートとまちひとしごと創生戦略(理念、政策、交付金事業、今後の鍵) 【教員作成教材】			
4	アクティブ・ラーニング(1)	政策コンペの概説【教科書第6章】			
5	アクティブ・ラーニング(1)	政策コンペの実践①【教科書第6章】			
6	アクティブ・ラーニング(1)	政策コンペの実践②【教科書第6章】			
7	アクティブ・ラーニング(1)	PBLの概説【教科書第7章前半】			
8	アクティブ・ラーニング(1)	PBLの実践①(ヤングレビュー)【教科書第7章前半】			
9	地方創生(2)	宇治田原町の地方創生(宇治田原町職員による講演)			
10	アクティブ・ラーニング(2)	PBLの実践②(ヤングレビュー)【教科書第7章前半】			
11	アクティブ・ラーニング(2)	ケースメソッドの概説【教科書第7章後半】			
12	アクティブ・ラーニング(3)	ケースメソッドの実践【教科書第7章後半】			
13	アクティブ・ラーニング(4)	ゲーミング・シミュレーションの概説【教科書第9章】			
14	アクティブ・ラーニング(4)	ゲーミング・シミュレーションの実践【教科書第9章】			
15	地方創生(3)	知事対談(京都府知事と増田寛也客員教授の講演と対談)			
評価方法	授業の事前課題、授業中のワークや到達度チェック等、授業後のチェックアウトワーク等(100%)レポートが出題される場合もある。詳細は授業内で説明する。 ※2027年2月15日(月)午後15時に予定される公共政策実習Ⅰ成果報告会に出席し、チェックアウトワークを提出することが求められます。				
テキスト	足立幸男・窪田好男 編『政策人材の育成』ミネルヴァ書房 教員作成の教材PDF(授業内で配布)				
参考書	必要に応じて授業内で指示する				
備考	<p>※第10回は足立例の大塚日ココースではなく、12月から1月の土曜日に実施される予定。</p> <p>※ゲスト講師等の都合により、取り上げるアクティブ・ラーニングの順番が変わる可能性がある。</p> <p>※授業外学習(予習・復習):毎回、次回授業内容についてteamsで予告する。その際に教科書の該当箇所を示すので、あらかじめ読んで疑問点等を整理して授業に参加すること。また、事前課題を指示する場合がある。授業終了後にチェックアウトワークとして授業の質問・感想・気になった点の記述をteamsで行うこと。また、事後課題を指示する場合がある。</p> <p>※この授業はオンラインと対面のハイフレックス方式で実施される。教員はまいづる赤れんががオフィス等からオンライン方式で授業を行う。学生はteamsを使い、下鴨キャンパス内の指定の教室やその他学内、自宅等においてオンライン方式で受講することができる。まいづる赤れんががオフィスに来て対面式で受講することもできる。 【林先生はオンラインで受講予定】</p>				

講義コード [8-3] 京都府立大学社会科学部		開講区分	2 学年	前	後
ケースメソッド自治体政策		コマ数	講義(座学)	15コマ	実習 0 コマ
		講師	窪田 好男 他		
目的	<p>本科目は講義である。</p> <p>ポリシーマインドに基礎付けられた実践的な政策能力の獲得を目標に、ケースメソッドによる授業を行う。</p> <p>ケースメソッドにおける方法としては、ケースブックを用いた授業を中心としつつ、リアルケースによる授業を行う場合もある。</p> <p>取り上げるケースは地方自治体で実際に行われている公共政策である。地方創生に関する市町村の公共政策を中心に取り上げる。</p> <p>本科目のより具体的な目標は3つあり、①公共政策学入門Ⅱで学習したポリシーマインドを使って、地方自治体の首長や幹部など政策の企画立案や実施をする立場に立ったつもりになって、実際の政策のよしあしを判断できるようになること、②政策デザインに必要な暗黙知を獲得すること、③地方自治体の公共政策の形成過程に関わるアクターの実態を理解すること、である。</p> <p>本科目の進め方は以下の通り。</p> <p>全15回の授業の間に5つのケースを取り上げる。1つのケースについて2回の授業を行う。1回目の授業までの授業外学習として、学習者はケースブックを読むとともに、指示された事前学習課題に取り組む(ケースで取り上げる公共政策やその舞台となった地域についての情報収集等が指示される場合が多い)。1回目の授業では、教員による説明や教員が司会する集団討論により学習者全員がケースで取り上げる公共政策やその舞台となった地域等についての情報を共有する。さらに教員がアサインメントクエスチョンを出題する。2回目の授業までの授業外学習として、学習者はアサインメントクエスチョンの回答を考え、レポートとして提出する。2回目の授業では、アサインメントクエスチョンについて、教員が司会する集団討論を行うとともに、教員による講評や解説を行う。</p> <p>なお、授業のうち3回は増田寛也客員教授を招いて1日で実施する(6月か7月の土曜日の2～4コースを予定している)。</p>				
概要	<p>全15回の授業の間に5つのケースを取り上げる。1つのケースについて2回の授業を行う。1回目の授業までの授業外学習として、学習者はケースブックを読むとともに、指示された事前学習課題に取り組む(ケースで取り上げる公共政策やその舞台となった地域についての情報収集等が指示される場合が多い)。1回目の授業では、教員による説明や教員が司会する集団討論により学習者全員がケースで取り上げる公共政策やその舞台となった地域等についての情報を共有する。さらに教員がアサインメントクエスチョンを出題する。2回目の授業までの授業外学習として、学習者はアサインメントクエスチョンの回答を考え、レポートとして提出する。2回目の授業では、アサインメントクエスチョンについて、教員が司会する集団討論を行うとともに、教員による講評や解説を行う。</p> <p>なお、授業のうち3回は増田寛也客員教授を招いて1日で実施する(6月か7月の土曜日の2～4コースを予定している)。</p>				
講義	テーマ	講義内容			
1	ガイダンス				
2	ポリシーマインドのふりかえり				
3	ケースメソッドの練習①				
4	ケースメソッドの練習②				
5	ケースブックによるケースメソッド(1)	①事実の確認			
6	ケースブックによるケースメソッド(1)	②発表と講評			
7	ケースブックによるケースメソッド(2)	①事実の確認			
8	ケースブックによるケースメソッド(2)	②発表と講評			
9	京都府職員のリアルケースによるケースメソッド	①事実の確認			
10	京都府職員のリアルケースによるケースメソッド	②発表と講評			
11	ケースブックによるケースメソッド(3)	①事実の確認			
12	ケースブックによるケースメソッド(3)	②発表と講評			
13	行政トップによる政策判断①	講義			
14	行政トップによる政策判断②	出題と検討			
15	行政トップによる政策判断③	発表と講評			
評価方法	授業での発言、レポートなどを勘案して、総合的に成績評価を行う。				
テキスト	足立幸男・窪田好男 編『政策人材の育成』ミネルヴァ書房2025年 ※授業で使用するケースブックや資料は授業で配布する。				
参考書	なし				
備考	<p>本科目はアクティブラーニングの一種であるケースメソッドによるものであり、学習者の参加によって成り立つ。積極的に質問や発言をしてほしい。</p> <p>※ケースの内容や順番は入れ替わる可能性がある。</p> <p>※上記計画の13～15回は増田寛也客員教授の担当会である。</p>				

講義コード [8-4] 京都府立大学社会科学部		開講区分	2 学年	前	後
政策評価論 I		コマ数	講義(座学) 15コマ	実習	0コマ
		講師	窪田好男		
目的	<p>本科目は講義である。</p> <p>政策評価は、公共政策の価値を定量的に判じ定めたり(何円投じた政策が、何円分の価値を生んだかを明らかにしたり)、公共政策の必要性や有効性や費用対効果を評価するものである。公共政策は市場の産物ではないため効率性に問題が出がちであり、必要性や有効性や費用対効果の評価が不十分なまま公共政策の採用や継続が決定されがちであるため、政策評価は社会にとって必要である。</p> <p>政策評価は国や多くの地方自治体で制度化されているが、この科目を受講することにより、学習者は公共部門における評価の理論・手法、制度、課題について知識を獲得することができる。国や地方自治体などの公共部門における政策評価はなぜ必要なのか、どのような目的があるのか、どのような社会的な期待や背景があるのか、どのような手法があるのか、国や地方自治体における評価の制度としてどのようなものがあり、その導入背景、意義、限界はどのようなものであるか、さらに、公共部門における評価の理論・手法には現在どのような課題があるのか、学習者はこうした知識を獲得することができる。</p> <p>こうした知識を獲得することは、公共政策なくして成立・存続し得ない現代社会に生きる市民・職業人として重要であるし、公務員として実務に携わる上でも極めて重要である。また、国や地方自治体の評価制度を活用することにより、政策デザインや政策研究の質を向上させることもできる。</p>				
概要					
講義	テーマ	講義内容			
1	ガイダンス				
2	政策評価とは何か				
3	評価の理論・手法	体系的評価・セオリー評価			
4	評価の理論・手法	プロセス評価・インパクト評価の考え方			
5	評価の理論・手法	インパクト評価におけるインパクトの測定方法			
6	評価の理論・手法	効率性のアセスメント			
7	評価の理論・手法	業績測定			
8	評価の理論・手法	評価の利用			
9	評価の制度	自治体評価			
10	評価の制度	自治体の外部評価			
11	評価の制度				
12	評価の制度	事業仕分け			
13	評価の制度	諸外国の評価制度			
14	評価の制度	NPO評価			
15	評価の課題と展望				
評価方法	授業中に実施する到達度チェックと課題(80%)、期末レポート(20%)				
テキスト					
参考書	『日本型政策評価としての事務事業評価』日本評論社 『自治体評価における実用重視評価の可能性』晃洋書房 『プログラム評価ハンドブック』晃洋書房				
備考	※授業外学習(予習・復習):テキストあるいはその代わりに配布する詳細なプリントの該当する箇所をあらかじめ読んで授業に参加すること。読むべき箇所は毎回の授業の予告で指示する。 ※この授業はまいづる赤れんがオフィス等で実施する。学習者はまいづる赤れんがオフィスで対面方式で授業を受けることもできるし、Teamsによるオンライン方式で授業を受けることもできる。 【林大生はオンデマンドによる受講(録画視聴)】				

講義コード [8-6] 京都府立大学社会科学部		開講区分	2 学年	前	後
市 民 参 加 論		コマ数	講義(座学) 15コマ	実習	0コマ
		講師	小辻 寿規		
目的	<p>本科目は講義です。 本講義では、地方自治体で市民参加が進んできた背景やその具体例を見ることを通じて、持続可能な地域づくりを進めるための市民参画の必要性について学びます。</p>				
概要	<p>本講義では、私たちが暮らす社会への関心を高めるとともに、「市民参加」の意義や価値にとどまらず、楽しさについても考えます。講義科目ではありますが、市民参加の大前提となる交流を大切にすため、必要に応じて他の受講生とのディスカッションの時間を設けます。</p>				
講義	テーマ	講義内容			
1	授業の概要	—なぜ市民参加?—			
2	地域から社会を良くしたい	—市民活動はなぜ行われるのか—			
3	市民参加のやり方を探る	—地縁と志縁—			
4	社会的孤立や孤独を抱える社会を考える				
5	市民参加の現場における孤独・孤立対策				
6	コミュニティと市民参加				
7	ボランティアの歴史から見るみる市民参加				
8	市民参加はもう古いのか?	—1～7講をふりかえりながら—			
9	なぜ大学がまちづくりに取り組むのか				
10	地域活性化を考える				
11	協働のまちづくり				
12	地域における子育てと教育	—市民参加の担い手たち—			
13	災害ボランティアから考える市民参加				
14	様々な市民参加の形	—審議会等・パブリックコメント・住民投票—			
15	市民参加論総括(まとめ)				
評価方法	<p>期末レポート(60%)、中間レポート(25%)、出席(15%) レポートでは、「授業の内容を理解しているかどうか」、「そのうえで自分なりの見解を論理的・説得的に示しているかどうか」の2点から評価します。引用表記なしのWebサイトからのコピー&ペーストなど、他人の書いた文章を剽窃した場合、評価対象としません。AIなどを活用される際は特に注意してください。</p>				
テキスト	—				
参考書	『ボランティアコーディネーション力 第3版:市民の社会参加を支えるチカラ ボランティアコーディネーション力検定公式テキスト』早瀬昇・筒井のり子、中央法規。ほか専門書、関係論文等を適宜紹介します。				
備考	<p>※授業外学習(予習・復習):京都府ほか、様々な自治体で行われる市民参加を支援する活動に目を向けてください。また、新聞やネットのニュースを見て今、どのような市民参画が行われているのかについて調べるようにしてください。様々な市民活動に関するイベントも適宜紹介しますので、都合がつかう方はぜひ参加してください。</p> <p>※担当者の実務経験について 【実務経験内容】本科目の担当者は、NPO法人つながるKYOTOプロジェクトを設立し、10年以上にわたり社会福祉士として地域の居場所づくりを中心にまちづくり活動の中間支援やコンサルティングを行ってきた実務経験を有しています。草津市教育委員会教育委員として、地域を基軸とした教育政策の立案に携わっています。 【実務経験と授業の関連性】本科目では、地域産かに関する基礎的な解説に加え、社会課題解決のためにNPO法人を設立して活動してきたことや政策立案等に関与した経験を踏まえ、様々な市民参加の活動や政策の背景にある考え方や社会への影響などを授業内容に反映させています。 【林大生はオンデマンドで受講予定(録画視聴)】</p>				

講義コード [8-7]		開講区分	2 学年 前 ・ 後
森林公共政策特講 1		コマ数	講義(座学・実習)17コマ 実習 0コマ
		講師	高橋博樹、西尾直樹、田中朝日、藤本千寛
目的	森林公共政策士の資格取得及び森林施業プランナーで役立つ情報収集、意見集約能力を向上させる		
概要	ファシリテーションやインタビュー(取材)の技法を学び、「前に一步踏み出す力」「考え抜く力」等の社会人として必要なスキルを体得する		
講義	テーマ	講義内容	
1	オリエンテーション	公共政策学の実践教育プログラム「地域課題解決型プログラム」について解説	
2	オリエンテーション2	卒業研究の課題設定後に課題に対応した地域の概況を解説	
3	ファシリテーション・会議の進め方	地域の会議を想定した議事進行とファシリテーションの役割や進め方について学ぶ	
4			
5			
6			
7			
8	公共人材インタビュー	「インタビュー」技術を学び、人の思いや意見を引き出してまとめる行程を学ぶ	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15	クライアントへのインタビュー	クライアントに出向き、テーマに関する課題をインタビュー	
16	課題の整理	クライアントから聞き取った課題を整理する	
17	現況調査	クライアントを取り巻く現況を調査し、特色や地域活動を把握する	
評価方法	評価タイプ:D		
テキスト	必要な資料を配布します		
参考書			
備考			

講義コード [8-9]		開講区分	1 学年	前	後
森林公共政策実習		コマ数	講義(ガイダンス)1コマ	実習 14コマ	
		講師	岩井悠人、藤本千寛 他		
目的	農山村地域における課題解決に向け、森林公共政策入門で学んだ知識を小学生との交流を通して実践し、森林・林業の役割について理解を深める				
概要	地元小学校との森林環境教育・木育活動を通じて、小学生に森林・林業の役割や大切さを理解してもらう				
講義	テーマ	講義内容			
1	事前学習	各種交流行事・実習についてのガイダンスなど			
2	森林環境教育と木育	森林環境教育や木育について、森林内等でのさまざまな活動を通じて、人々の生活や環境と森林との関係について学ぶ。			
3					
4					
5					
6	地域活動の現地確認	地域の小学校での森林環境教育活動の現地確認			
7					
8	地域活動と企画書づくり	地元の小学校での森林環境教育活動についての企画書づくり(グループワーク)			
9					
10					
11					
12	地元小学校での森林環境教育実習	企画書をもとに、地元の小学校での森林環境教育活動の実践			
13					
14		森林環境教育活動のふりかえり			
15					
評価方法	評価タイプ:B				
テキスト	必要な資料を配布します				
参考書					
備考					
講義等に必要な物品(備品・消耗品)					

講義コード [8-10] 京都府立大学社会科学部		開講区分	2 学年 前	後
公共政策特殊講義 I (地方自治体と公共人材論)		コマ数	講義(座学) 15コマ	実習 0コマ
		講師	府大講師	
目的	本科目は講義である。			
概要	京都府立大学と包括協定を締結している自治体等の職員を講師として招聘し、現在取り組まれている重点施策を紹介いただくとともに、これをケースとしたディスカッションを通じて、人口減少社会における自治体等のあり方や、求められる職員像について理解を深める。			
講義	テーマ	講義内容		
1	ガイダンス			
2	自治体等講義①(職員講義+ディスカッション)			
3	自治体等講義②(職員講義+ディスカッション)			
4	自治体等講義③(職員講義+ディスカッション)			
5	ふりかえりワークショップ(①②③)			
6	自治体等講義④(職員講義+ディスカッション)			
7	自治体等講義⑤(職員講義+ディスカッション)			
8	自治体等講義⑥(職員講義+ディスカッション)			
9	ふりかえりワークショップ(④⑤⑥)			
10	自治体等講義⑦(職員講義+ディスカッション)			
11	自治体等講義⑧(職員講義+ディスカッション)			
12	自治体等講義⑨(職員講義+ディスカッション)			
13	自治体等講義⑩(職員講義+ディスカッション)			
14	ふりかえりワークショップ(⑦⑧⑨⑩)			
15	ふりかえり講義(全体)			
評価方法	出席 75%、授業態度 25%			
テキスト	特になし			
参考書	専門書、関係論文等を適宜紹介する			
備考	「市民参加論」を履修済であることが望ましい。 各自治体等のHP等を事前に確認し、人口や産業構造等の大まかな概要を把握した上で受講することが望ましい。また、授業中に説明のあった事例について、授業後、より詳細に調べることが望ましい。			